

2021年度 決算説明会 質疑応答

開催日 : 2022年5月23日(月)
出席者 : 代表取締役社長執行役員 大野 雅生
代表取締役副社長執行役員 加藤 孝明

1. 2021年度実績について

- Q. 為替感応度について教えてほしい。
A. 1円円安に動くとUSDで年間約1.4億円の利益、EURで年間約0.4億円の利益。

2. 2022年度計画について

- Q. 2021年度実績比でAC事業については増収増益であるが、増収幅に対して増益幅が小さく、HC事業については減収減益であり、減収幅に対して減益幅が大きいようにみえるが、それぞれの内容について教えてほしい。
A. AC事業については、ロシア・ウクライナの影響で利益率の高い市販製品売上減となるため、増益幅が小さくなっている。また、HC事業については、製品構成の変化により減益幅が大きくなっている。
- Q. AC事業のOEMの計画台数前提を教えてほしい。
A. お客様からの計画台数情報をベースにし、対外発表値作成時(5月13日)に判明している下振れ要因を加味している。
- Q. 原材料が高騰しているが、計画への織り込み状況を教えてほしい。
A. 鋼材のフォーミュラ部分については、ほぼ回収できるという見込みで計画に織り込んでいる。ガス・電気代等の燃料アップについては、弊社負担として計画には織り込んでいるが、欧州拠点での影響が大きいため、回収に向けて交渉していく。
- Q. 中国ロックダウン解除の話題が出ているが、HC事業の足元の状況、上期・下期の見込みを教えてほしい。
A. 中国ロックダウンの状況について、お客様の稼働状況は4月で約50~60%、5月で約80%となっている。上期予測としては、約80%を見込んでおり、下期については、現時点で予測できない状況であるため、適宜見直していく。

以上